



森とイエ 通信 Vol.24

「森とイエ」は
地域の工務店と建築家が
協働して
これからの北海道らしい
住宅を創造する
プロジェクトです
企画・運営
森とイエ プロジェクト

お問い合わせ

森とイエホームページの
お問合せページより
お願い致します

森とイエホームページ
<http://moritoie.net/>



column

先日、東京で、かねて
より訪れたいと思って
いた師匠の師匠が
設計した代表作を
見に行く機会を得ました。



約50年前に建てられた建物ながら、
古びることなく力強く佇む姿に触れ、
改めて自分の設計姿勢を見つめ直すきっかけとなりました。
同じ建築家が同時期に手がけた住宅が京都にもあり、数年前に訪れたことがあります。両者を思い返すと、同一人物の設計とは思えないほど作風に幅があり、建築という表現の奥深さをあらためて感じます。
ここ数年は忙しさに追われ、建築を見に行く機会が減っていましたが、やはり実際に空間に身を置いて得られる刺激は何にも代えがたいものです。今後は意識して時間をつくり、インプットの機会を大切にしていきたいと思います。(野村)



2025.11.25

13

棟目の 森とイエ



完成見学会予告



訪問先
堀部太建築設計事務所

仕事場訪問



そこには「ここが玄関」「ここがワークスペース」といった明確な境界はなく、名前のない余白のような場所、気づけば、各々が自分

な体感です。

2・3階の住宅部分も印象的でした。外部

や事務所エントランスに対してはしっかりと視線

を制御しながらも、内部では光と空気がの

びやかに巡る。階ごとに空間の性質が変化

し、閉じ、開き、重なり、繋がる。そのあわ

いに居心地の良さが生まれていました。

堀部さんの仕事場には、「建築がどう人を

包み、どう自由を与えるか」という事への想

いが息づいていました。ユニットでチャレン

ジングであり、深く推敲されたその空間に

触れ、「建築をつくる」という行為

の面白さをあらためて感じた、

刺激的な訪問となりました。

(訪問者 富谷)



現場見学会報告



2025年9月3日(土)、森とイエにとって13棟目となるH-HOUSEの構造見学会が開催されました。本格的な見学会は久々の開催で、さらに、チームには初参加となるメンバーも加わり、新鮮な気持ちでのスタートとなりました。

当日は、事前にご予約いただいたお客様や、地域に根差した家づくりに取り組む工務店の方々など、建築に関心の高い方が足をお運びくださいました。参加者の皆さんには、森とイエの活動理念についても耳を傾けていただき、よい交流の場となりました。現場では、設計を担当した照井さんに、設計の意図や技術的なポイントを直接ご説明いただきました。模型でイメージしていたものが、目の前に立ち上がりしていく様子はいつ見てもほんとうにわくわくとするもので、完成への期待が膨らみます。特にH-HOUSEの大きな特徴の一つ、1階と2階に設けられた開放的なアウトドアリビングは、今から本当に楽しみです。9月上旬にもかかわらず日差しが強く、シートで覆われた建物内部はうだるような暑さに…。皆、滝のような汗を流していたところ、参加の方から凍らせたスイカという最高の差し入れがありました。「美味しい！」

「生き返る！」と皆でほおばり、この日の出来事の中でも一番鮮明な記憶として残ったのでした。

(新海 写真:野村)

9/3
Sat

12/13
Sat



建築旅行記

今から約20年前、私が建築家を目指すきっかけとなった建築旅行記について、報告させて頂きます。2006年3月。大学が毎年主催していた建築視察に学部2年生の時に参加し、ヨーロッパの建築を一ヶ月間見て周りました。一番印象に残っているのがこの旅行の最初に見学した、オランダの建築家集団MVRDVが設計したオクラホマ（100戸の高齢者用住宅）です。土地の広さに制限があり、片持梁で建物の一部を突き出す事で住戸数を確保しているのが特徴の建物です。



そこに住んでいる人たちの楽しそうな表情や、それぞれのベランダに住民の個性が滲み出るような、いきいきとした風景が印象的で、私の知っている高齢者用住宅とは違う空気が流れていると感じ、建築家という職業に強く感動したのを覚えています。

この建築を体験して、私もいつか使う人たちがいきいきと楽しく過ごせるような、魅力的な建築を作りたいと思うようになりました。

(堀部)



2025.11.25